

第5章 河川水の利用の実施

5-1 水利用の現状

雲出川の豊かな水量は、古来より農業用水として利用され、中下流域の沖積平野における米の生産を支えてきた。「一志郡史」によれば、平安末期には須賀井が開起し、1483年に笠松井が造られている。その後、江戸時代に入ると、幕府の開墾の奨励で多くの堰が造られた。

雲出川の水利用の特徴は本川、支川とも多くの井堰が設置され、農業用水の占める割合が大きいことが挙げられる。流域の水利権に関わるかんがい区域は本川、支川で約4,400haにおよび、水利権量は合わせて約19.634 m³/sとなっている。

水道用水については、生活様式の変化や都市化の進展に伴い増加傾向にあり、津市に0.372m³/s、三重県に中勢水道として1.019 m³/sを供給している。工業用水については中伊勢工業用水道として0.625 m³/sを供給している。

さらに、上流指定区間内に大正11年に建設された中部電力の竹原発電所^{たけはら}があり、最大取水量1.110 m³/sを利用し、最大出力700kwの電力供給を行っている。

表5-1 雲出川水系の水利用状況

種別	法	件数	最大取水量 (m ³ /s)	備考
発電用水	許	1	1.110	竹原発電所
水道用水	許	5	1.4111	津市、三重県
工業用水	許	3	0.630	三重県他
農業用水	許	66	19.6344	かんがい面積 約4,400ha
	慣	194	—	
その他	許	5	0.239	
	慣	6	—	
合計	許	80	23.0245	
	慣	200	—	
	計	280	23.0245	

法：河川法第23条の許可を得たもの

慣：河川法施行前から存在する慣行水利

(出典：水利権台帳 H17.12現在)

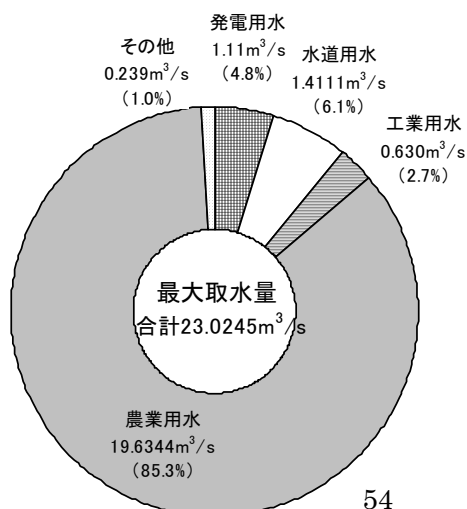


図5-1 雲出川水系の水利用状況
(許可水利権のみ)

(出典：水利権台帳)

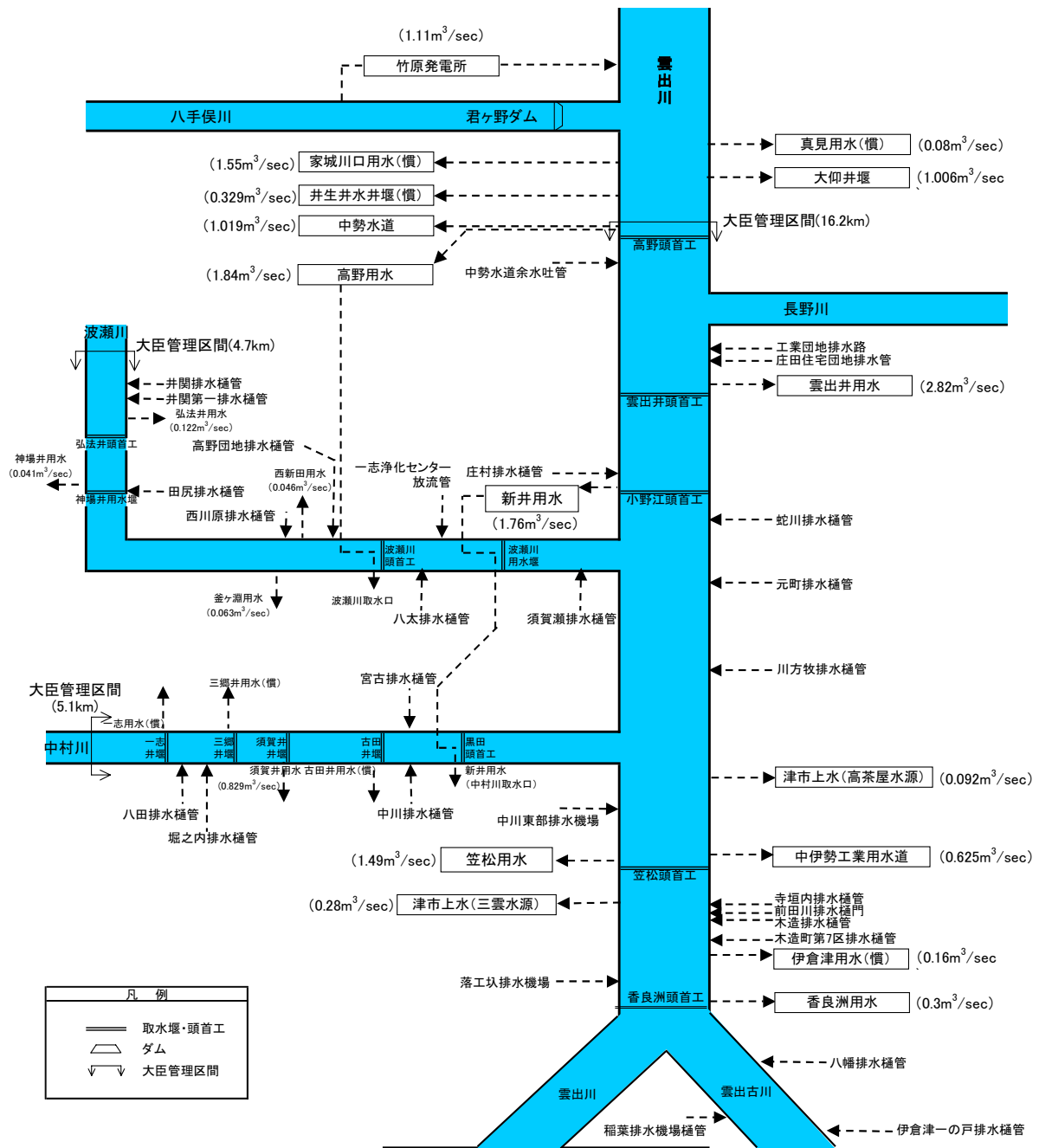


図 5-2 雲出川水系 取排水系統模式図 (主要な水利権を記載)

注) (慣) は慣行水利を示し、その他は許可水利を示す。

君ヶ野ダムによる上水道用水は、北中勢水道用水供給事業として経済、文化、行政の中心である津市を中核とする2市に供給されている。

創設事業当初は、津市、旧久居市（現津市）、旧一志町（現津市）、旧嬉野町（現松阪市）、旧三雲町（現松阪市）を対象に、計画人口 227 千人、計画一日最大給水量 61,380m³として計画し、昭和 46 年から給水が開始されたが、給水地域の発展に伴う水需要の増加と、旧白山町（現津市）の事業参加のため、第一次拡張事業がなされ、計画人口 280 千人、計画一日最大給水量 81,416m³とし、昭和 56 年 4 月に全部給水されている。

表 5-2 北中勢水道用水供給事業 中勢系 雲出川水系

給水対象	津市、松阪市
計画給水人口	280,000 人
計画最大取水量	88,000m ³ /日
計画最大給水量	81,416m ³ /日
給水開始	
創設事業給水開始	S46.6
第一次拡張事業給水開始	S52.9
全部給水	S56.4

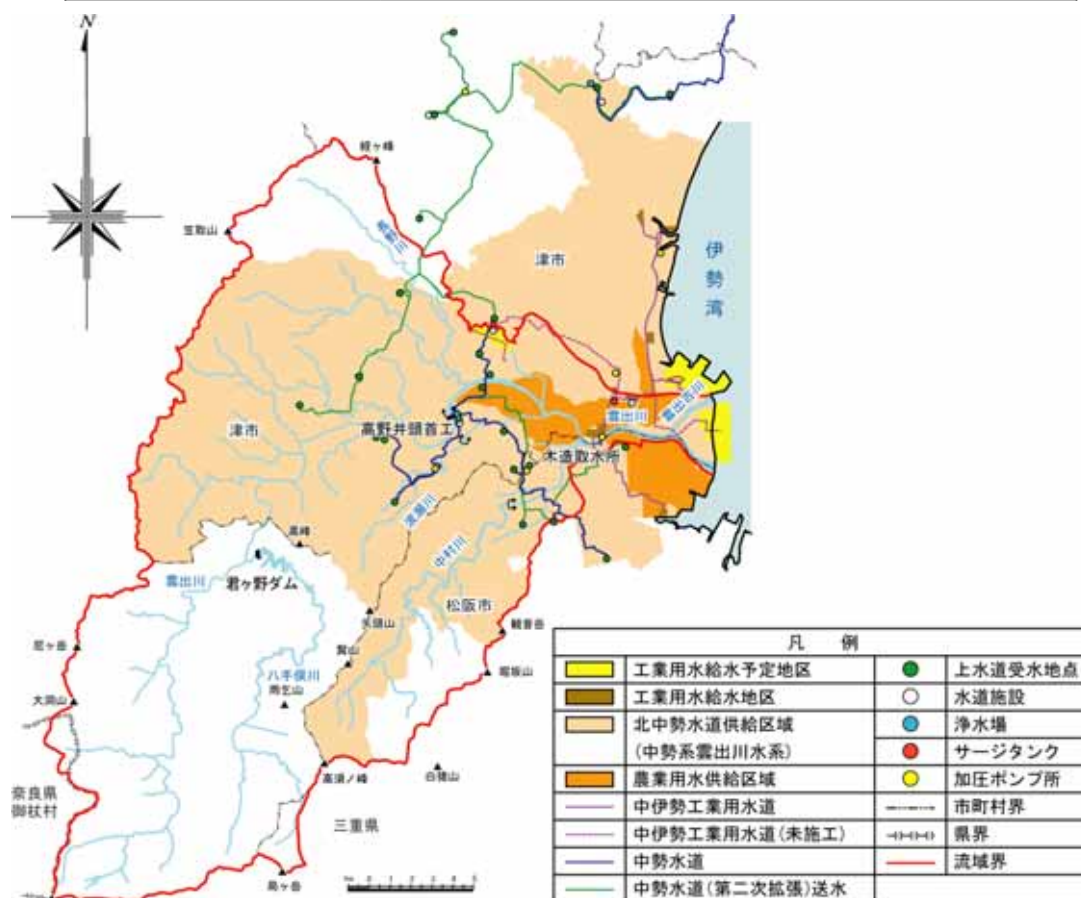


図 5-3 君ヶ野ダム受益図

5-2 渇水被害と渇水調整

雲出川の流域は、全国的に見ても多雨地帯に属している一方で、古くから一志米を中心とした稲作が盛んであることから、農業用水としての利用が盛んとなっている。また、地域開発の進展と生活水準の向上に伴い水需要が増加している。

このため、昭和47年の君ヶ野ダムの完成により、渇水時におけるダム下流の農業・上水道・工業の既得用水補給と流水の正常な機能の維持を図り、雲出川の潤いのある流れを維持している。

また、雲出川水系では、渇水時における水利使用の調整及び円滑な実施方法について協議することを目的に、関係行政機関による「雲出川渇水調整協議会」を設置し調整等を行っている。

雲出川水系における既往渇水は、昭和62年(1987年)、平成6年(1994年)～平成8年(1998年)及び平成12年(2000年)におきている。

昭和62年渇水では君ヶ野ダムの貯水率が26%程度まで低下し、このため利水関係者の協議によって、5月8日から上水道、農業用水及び工業用水としての放流を2.0m³/sから1.0m³/sに半減した。

一方、平成6年は全国的な渇水として知られており、雲出川水系においても雲出川渇水調整協議会が7月20日～8月15日の期間中設置されている。また、平成7年、平成8年、平成12年、平成17年にも渇水に見舞われた。

伊勢新聞
平成6年7月21日

中勢地域の降雨量
三重大生物資源学部が分析

70年に1度の渇水年と判明

伊勢新聞
平成17年7月29日

三重大生物資源学部が、中勢地域の降雨量を70年間のデータを用いて分析した結果、今年(平成17年)の降雨量が70年に1度の渇水年と判明したと発表した。分析は、同学部の教授が、過去のデータと今年までのデータを比較し、今年までの降雨量が70年間の平均よりも約1割少ないことが判明した。今年までの降雨量は、前年(平成16年)の約8割に留まり、過去10年間で最も少ない水準に落ちている。分析によると、今年までの降雨量は、70年間の平均よりも約1割少ないことが判明した。今年までの降雨量は、前年(平成16年)の約8割に留まり、過去10年間で最も少ない水準に落ちている。分析によると、今年までの降雨量は、70年間の平均よりも約1割少ないことが判明した。今年までの降雨量は、前年(平成16年)の約8割に留まり、過去10年間で最も少ない水準に落ちている。

雲出・柳田川水系

23日から取水制限

三重工務所 事務所 渇水対策支部を設置

建設省三重工務所は、農業用水各〇%取水制限するの放流は通常通り続けるが、取水制限は、治水権者間で、水回りが良くなるよう調整してあげる。

十日、雨量が平均に比べ極めて少ない現状から、渇水対策として、雲出川の水がなる君ヶ野支部を設置する。管内、管ダム(二志郡美杉村)は貯水率の約半に、柳田川水系に属する渇水調整協議会を閉じて、前九時現在、確保しているものの、ダム流域外の河川水量は少なく、特に下流の水回りが悪く、工業用水・農業用水の取水制限する。

上になったとしても、放流は、既に決まっています。今年(平成17年)の渇水は、昭和62年(1987年)以来、約三十年ぶりです。分析した結果、今年(平成17年)の降雨量は、70年間の平均よりも約1割少ないことが判明した。今年までの降雨量は、前年(平成16年)の約8割に留まり、過去10年間で最も少ない水準に落ちている。分析によると、今年までの降雨量は、70年間の平均よりも約1割少ないことが判明した。今年までの降雨量は、前年(平成16年)の約8割に留まり、過去10年間で最も少ない水準に落ちている。

H6 年

年月日	君ヶ野ダム貯水量 千 m ³ (貯水率)	渇水対策の経過等
H6. 7. 15	3,635 (18.5%)	雲出川渇水調整協議会準備会 第1回雲出川渇水調整協議会 7月23日から第1次節水 (上水10%、工水・農水20%)実施する
H6. 7. 20	3,179 (16.1%) 2,867 (14.6%)	
H6. 7. 26	3,109 (15.8%)	第1次節水緩和(自主節水) 第2回雲出川渇水調整協議会 8月12日から第2次節水 (上水15%、工水・農水30%)実施する
H6. 8. 9	1,795 (9.1%) 1,268 (6.4%)	
H6. 8. 15	2,962 (15.0%)	

H12

年月日	君ヶ野ダム貯水量 千 m ³ (貯水率)	渇水対策の経過等
H12. 7. 26	1,757 (8.9%)	雲出川渇水調整協議会準備会 第1回雲出川渇水調整協議会 8月3日から第1次節水開始 (上水10%、工水・農水20%)実施する
H12. 8. 2		
H12. 8. 3	1,108 (5.6%)	8月8日から第2次節水開始 (上水15%、工水・農水30%)実施する
H12. 8. 9	740 (3.8%)	第2回雲出川渇水調整協議会 8月15日から第3次節水開始 (上水25%、工水35%、農水、50%(自主節水)) 実施する
H12. 8. 18	535 (2.7%)	第3回雲出川渇水調整協議会 8月19日から第4次節水開始 (上水30%、工水40%、農水、50%)実施する
H12. 9. 11	2,540 (12.9%)	降雨により節水解除